



ばく通信 NO. 1



2009.7.1 発達障害児応援団 NPO ばく

雨でむしむした日が続きますが、皆様お元気でいらっしゃるかと存じます。さて、ばくの活動も1年がたちました。1年間の相談・指導に対する保護者の意見や指導の実際について紹介したいと思います。

保護者の意見

<保護者の感想> 28名中24名回収

①おさんは変化したか?⇒はい23名 いいえ0名

無回答1名(入室して1か月なので)

*どんなところが?

自信・安定・楽しみ

周囲とのトラブルが少なくなった。

いやなことをひとのせいにしなくなった。

「教えて」「貸してください」等を使うようになった。

書くことへの抵抗が下がった。

作文力がついた。

②保護者の気持ちは変化したか?⇒はい24名 いいえ0名

無回答1名(入室して1か月なので)

*どんなところが?

安心感・オープン・子どもの可能性を信じる気持ち

支援の実際

<漢字を書いたり覚えたりするのが苦手な子(視覚>聴覚)に対する支援>

漢字を視覚的に意味づけして覚える。

1. 漢字を部分に分解する
2. ひとつひとつに絵としてのイメージを付けていく
3. 自分でイメージをうかべたり、ヒントを聞いたりしながら、筆順のとおりを書く。
4. 平仮名を見て、漢字を書くことができる。



1. ①～⑤までに分解し、色分けして、視覚的に捉えやすくする。



2. ①くさかんむり
②月
③つの、2本棒
④ひと
⑤花火

等、形を重視したり本児の獲得している文字を組み合わせたりしながらイメージを持たせる。



3. 絵をイメージしながら筆順通りに書く。
4. 平仮名を見て、正しい漢字を書くことができる。

子どもの様子

今まで、抽象的な記号のように感じていた文字が、自分の得意な絵で覚えられるということがわかり、漢字を書くことに意欲を見せるようになった。自分から「僕は～に見える」と言うようになってきている。今後の課題は、漢字の読みとの結びつきが弱いので、ヒントがないとなかなか想起できない時があることだ。漢字によっては意味を中心にして、同じ偏やつくりの文字を同時にいくつか学ぶことを行っている。(いとへん、うかんむり等) 回数を重ねていくうちに、平仮名の読みから想起できるようになってきている。書ける字を何回も書かせ、自信をつけることが効果的であると思われる。